

家庭との効果的な連携の視点

家庭は、基本的な生活習慣、人に対する思いやり、善悪の判断など、子どもたちが社会生活を営むための基本的なルールやマナーを身につけるうえで極めて重要な役割を担っています。

子どもたちが出会うさまざまな問題への指導・援助をすすめるうえで、家庭がその役割を適切に果たせるような学校と家庭との連携は不可欠といえましょう。

はじめに

家庭（保護者）は、基本的には学校（教職員）との連携を図るチームの一員として位置づけていくことが重要です。

保護者は子どもの養育に責任（親権）をもつ者であり、また、子どものことを最もよく知る存在です。

子どもたちに豊かな人間性や社会性を身につけさせ、社会の構成員として必要な資質や能力の育成を図るためにも、学校と家庭との連携は欠かすことができません。

学校と家庭（保護者）との連携

学校と家庭との連携では、大きく分けて、次の2つの連携の在り方が考えられます。

「家庭（保護者）の子育てを支援する」ための連携

「教育成果を上げるために家庭（保護者）の支援を求める」ための連携

次に、それぞれのポイントです。

「家庭（保護者）の子育てを支援する」ための連携について

保護者（親）の思いや願い、考えをよく聴き、聞き役に徹する。

保護者（親）の立場や考えを尊重し、子育ての苦労を共感的に理解しようとする姿勢をもつ。

これまでの子育てや家庭（保護者）の対応に問題があるという発想ではなく、これから家族の誰がどのように関わっていけるかを一緒に見つけるという発想であたる。

家庭と学校が一緒に、何で困っているのか（問題）を整理し、家庭と学校でやれること、分担して働きかけることを探していく

保護者は、学校から望ましい対応を求められたことが、『欠点を指摘され、指導された』とか、『これまでの育て方が悪いといわれ、親の子育てに問題があった』と受けとめてしまい、拒否的な態度になっていくことがある。

このようなことを防ぐためには、保護者への説明や対応では、上記のような点に配慮していく

必要がある。

「教育成果を上げるために保護者の支援を求める」ための連携について

学校として何のために何をどうしたいのかをよく説明し理解を得ようとする姿勢をもつ

保護者の理解や協力に対して感謝を表していく

学校（教職員）と家庭（保護者）がお互いにやれそうなこと、できることを出し合い、役割分担をはっきりさせる。

家庭との連携のための具体的な方策

家庭との連携を効果的にすすめていくための具体的な方策として、次のことがいえます。

面談や電話、家庭訪問に限らず連絡帳、日記、通信、行事等での来校時など、日頃から家庭とのコミュニケーションの機会を活用する

小さなことでも頑張ったり、よい変化がみられたことなどを積極的に伝える

信頼関係づくりや家族の安定・支援を目的とした家庭訪問を実施する

学校と家庭の連携も信頼関係から

学校と家庭との間に十分な信頼関係があれば、それぞれの役割を分担し、協力しあって児童生徒の問題解決に対応することができます。

その家庭との協力を得るためには、次のようなことに留意しましょう。

子どもの問題が起きたことに対して、保護者の責任として過度に責めない

子どもが少しでもよい変化をしたと気づいた時、その変化には保護者の努力が効を奏しているとみられたら、その変化を保護者と共々に確認し、共有すること
子どもの長所に保護者が気づけば気づくほど、子どもはよりよく成長する可能性をもつ。子どもの長所発見に努力しよう
保護者の協力を求めること

子どもの変化や成長を根気よく、信頼して待ってみようとする心構えの重要性を親が自覚するように援助する

【参考文献】 日本学校心理学会編『学校心理学ハンドブック』，教育出版，2004

原野広太郎編著『教職課程 生徒指導・教育相談・進路指導』，日本文化科学社，1994